

# 嬉望

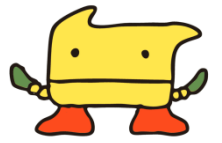
第11号  
平成28年3月22日  
兵庫教育大学  
教職大学院  
学校経営コース  
大学院生編集部

## 平成二十七年度修了

やわらかな日差しが、心地よく感じられる季節となりました。早いもので、もう十七年度が終わろうとしています。この一年間、教育改革の大きな潮流の中で、院生は様々なことを学びました。今、その一つ一つを思い出し、教育現場で何を改革し、何を生み出さなければならぬのかを、各自が自問自答し、学びを深めているところです。特に二年生は、修了が近づいています。「改善プラン」にまとめた大学での学びの成果を、それぞれの故郷の教育現場へ還元すべく、固い決意と共に準備を進めています。今号では、そんな二年生の思いを綴りました。また、学究世界に導いてくださった大学の先生方から、はなむけの言葉をいただきました。



「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん  
大学マスコット

二年間の大学院生活では、不慣れで困難な状況に直面した経験があった一方で、職務遂行に役立つ新たな視座も得られたことでしょう。今後の内外環境の激変に対応していくためにも、学び続ける姿勢を維持し、教育界を活性化していくリーダーとしての自覚と責任を持ち、より高度な教育実践活動に邁進してください。

「はなむけの言葉」  
学校経営コースの先生方より

### 浅野 良一 教授

二年生の皆さん、修了おめでとうございます。門出に当たり、フランクルの「夜と霧」に記されている「生きる意味」を贈ります。「私たちは、生きることから何かを期待するのではなく、生きることが、私たちに何かを期待しているのだ」これは、私たちは人生から、一瞬一瞬、常に、生きる意味を問われているのだ、ということ。つまり、私たちがなすべきことは、「人生から、時々刻々と投げかけてくる様々な問い」に対して、「ひとつひとつに、全力で答えていく」ことです。各地での活躍を祈ります。

### 當山 清美 准教授

大学院修了の節目に際し、これまでのご努力に敬意を表するとともに、心よりお慶び申し上げます。

何事にもA.T.M（明るく、楽しく、前向きに）思考で、期待される職責を果たしていかれますよう、益々のご活躍を祈念申し上げます。

### 大野 裕己 准教授

教職修士（専門職）の学位を授与された皆様、おめでとございます。例年より大きな集団となった七期生の学びの工夫には、私たち教員が学ばせていただくことが多くありました。学校教育の過渡期にあつて現場に戻られる皆様が、創意ある実践を積み重ねていくこと、そして地域の学校づくりの「思想（ビジョン）」を紡いでいくこと（それぞれのTPOでそのような役割行動をとること）をお祈りしています。これからも、学校経営コース

二年間の大学院生活では、不慣れで困難な状況に直面した経験があった一方で、職務遂行に役立つ新たな視座も得られたことでしょう。今後の内外環境の激変に対応していくためにも、学び続ける姿勢を維持し、教育界を活性化していくリーダーとしての自覚と責任を持ち、より高度な教育実践活動に邁進してください。

### 川上 泰彦 准教授

大学院での二年間、いかがだったでしょうか。これまでのキャリアがある皆さんにとって、大学院の学びが「新しい知識を得る」というレベルにとどまるのはもったいないことです。できれば「新しい見方・考え方を獲得する」とか「世界が広がる」といったものになっていることを、また今後のキャリアの中で、そういうことを感じていただく場面が出てくることを、願っております。かくいう私にとつても、この一年は大変刺激が多く、消化しきれずおりました。今後もおつきあいをいただき、その中で還元ができるよう、精進したいと思っております。

### 上田 真弓 准教授

修了おめでとうございます。私は皆さんとは一緒に過ごす時間が非常に少なかったのですが、その中でも、積極的に声をかけてくださったり、疑問をぶつけてくださったり、あるいは私のぶつける疑問に答えてくださったことが印象的でした。これから学校経営や教育行政を担われる皆さんの先には、たくさんの子供たちと、彼らが形作るこれからの社会があります。それを支える同士として、私も学び続けたいと思います。今後ともお付き合い頂ければ嬉しいですね。

### 安藤 福光 准教授

皆様、ご修了おめでとうございませう。コース史上、最も人数の多い学年として、「活気があつて」「濃くて」「クセのある」活動が展開できたのではないのでしょうか。少なくとも安藤ゼミはそうでした。日程調整は大変でしたけれども、全国津々浦々の学校を訪問し、そこで皆さんからお聞きしたり、解説いただいたりした学校現場の話は、現場を知らない小生にとって非常に有意義な勉強の時間となりました。感謝申し上げます。今後とも末永くご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 「修了にあたって」

二年生より



### 柳井 崇史（コース長）

（山口県下関市立日新中学校）  
キャリアの節目をとうに過ぎた自分が、再び大学院で教職人生の棚卸の研修を二年間もするとは思っていませんでした。しかし、学校経営コースには、「理論と実践の融合」という、教職三十年分の知識を再編成するための学修内容と「誰と出会い、その関係をどう生かしていくのか」とい

う、これからの教職に必要な貴重な人との出会いが計画されていきました。クランボルの「計画された偶発性理論」をまさに自ら体験した二年間で、この学びと人的財産を地元で次世代に引き継ぐことが最後の一仕事になりそうです。二年間の学びを支えてくださった方々に感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。



改善プラン発表会

**伊藤 純一**  
(北海道美瑛高等学校)

「大学院における現職教員の再教育・研修の拠点」である兵庫教育大での学びは本当の濃厚なものでした。全国から選抜されてきている院生と共に学び合うことは、自分自身の物の見方や考え方の甘さを痛感するとともに、自身の教師としての視野が一気に広がるような感じであり、自身の成長に一番役立ちました。また、学校経営や教育行政の分野で最先端の研究をしている教授陣のもとでの学びも、自分自身を成長させるものでした。この二年間の学びを派遣元の北海道に還元できるように今後も努力していきたいです。

**井上 政行**  
(兵庫県立松陽高等学校)

この兵庫教育大学で過ごした二年間は、大変有意義なものでした。また、浅野教授をはじめ素晴らしい先生方との出会い、二十名の学びを共にした仲間との出会い、そして自然豊かな環境で学ぶことができたことに感謝しています。以前、「将来を見据えて勉強しているか、周囲からその立場の人とわかる姿勢であるか、上司を本当に助けているか」と問われたことがありました。この二年間は、日頃からやるべき課題(問題)を自ら見つけ、問題の本質を見極め、自分なりの答えを見出すための時間であったと思います。最後に、上村晃一校長から頂いた言葉を胸に学びと教育活動を継続していきたいと考えています。「勇なるかな 勇なるかな 勇あらずして、何をもつて行なわんや」

**岩瀬 弘憲**  
(佐賀県立唐津東中学校)

この文章を書いている院生の机の本棚の一番上のスペースに、先輩が残されたと思われる二十冊近くの本があります。入学時に院生室で見つけた本です。当時は全く読む気もなく、また捲ってみても読めませんでした。二年が経ちました。いつのまにか殆どの本を自然に読んでいました。先進校事例研究や改善プランの執筆で大きな示唆を得た本もあります。これも経営

コースの歴史が成せる技と感じました。修了の時を迎え、後悔がないと言えば嘘になりません。しかし、四十六歳にして経営という新たな学びの視座を得て、かけがえのない友人たちと師と呼べる先生方に出会えたことは、生涯の財産です。

**小川 晶弘**  
(兵庫県三田市立高平小学校)

修了にあたって、この二年間お世話になりました学校経営コースの先生方、兵庫教育大学の先生方、現任校の先生方、教育委員会の皆様、そして、P2・P1の皆様に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

あつという間の二年間でしたが、学校現場では得難い学びを進めることができました。特に「協働性」と「信頼」について深く掘り下げて考え、構築のプロセスを自分なりに突き詰められたことはわたしの宝です。

学校現場に戻って以前とは少し違った見方や考え方ができればいいですが、日々の業務に忙殺されるかもしれませんと、「小さなことからコツコツと」実践を積んでいきたいと思っています。

**古寺 弘憲**  
(兵庫県姫路市立朝日中学校)

毎日必死に頑張っているのに何か空回りしているような「多忙感」に苛まれていた私

は、「教育とは何か？」改めて教師の仕事について考えたいと願い、自ら望んでここに来ました。それから二年間。ここで学んだことの全てが私を成長させ、大きく視野を広げてくれました。

正直、まだまだ分からないこと、出来ないことだらけの未熟者ではありますが、未知に対し、恐れず考えようとする意志は持つことができました。私に、この学びの機会を与えて下さった現任校、及び派遣元の皆様。そして二年間の学びを支えて頂いた先生方、院生の仲間に深く感謝し、心より御礼申し上げます。

本当に、素晴らしい大学院生活でした。有難うございました。

**小西 裕之**  
(秋田県美郷町立六郷小学校)

大学院での二年間で多くの理論や実践を学んだことは、経験や頼りにしてきたこれまでの自分の教育実践を見つめ直す貴重な機会となりました。また、現任校のある秋田県の教育内容を全国と比べて客観的に考察できたことは、現場に復帰した際に、秋田の特性をより生かした教育実践のために役立つのではないかと期待しています。

さらに、全国から集まった素晴らしい現職教員やストリート院生、学部生のみならずと一緒に学ぶ機会を得たこと、

そして関西地方の生活と文化に毎日触れることができたことで物事の見方や考え方が豊かになり、私の人生において非常に大きな収穫となりました。

**佐藤 秀樹**  
(鳥取県智頭町立智頭小学校)

兵庫教育大学大学院での二年間は「学びは人それぞれ」を念頭に置いていました。圧倒的に自由になる時間と行動範囲を強みに、教育の最先端にふれ、本物と出会い、フィールドワークで学びを深める過程を経て学校経営の見識と行動力が養われるのを感じました。

理論と実践の融合が進まず、「ちよんまげ」がとれない自分の意識に悶々とする時期もありましたが、学校経営コースの先生方の懐の広いご指導とコース最多の素晴らしい仲間のお陰で修羅場へ踏み出す決意ができました。感謝の気持ちで一杯です。

人生の節目に貴重な学びの機会を与えてくださった派遣元の教育委員会の皆様、現任校の先生方、ありがとうございました。

**白川 正樹**  
(兵庫県立有馬高等学校)

素晴らしい先生方と院生の皆さんに恵まれて、充実した二年間を送ることができました。多彩で先端的な講義や演習、



数多くの学校訪問、校種や年齢を超えた院生相互の学び合いを通じて視野が広がりまし

二年間、丁寧な指導で導いてくださった浅野先生をはじめとする学校経営コースの先生方、貴重な学びの機会を

兵庫教育大学で出会った人々とのつながりをこれから大切にして、学修の成果を現場の実践で生かせるように頑張りたいと思います。二年間本当にありがとうございました。

菅生 宏

(鳥取県立八頭高等学校)

兵教大に単身でやってきて、心細かった初年度当初。少し慣れたら、やってきた課題の嵐。夏季休中は学びを取り戻そうとしていろいろなどころに行きました。先進事例では、聞きたいことが聞けなくて何度も通ったこと。二年になって、講義数は減りましたが、その分密度の濃さ。インターシップが終わり兵教大に戻ってからは、改善プランで悶々とした日々。こんな私を引っ張ってくれたのは、時に厳しく時々優しく叱咤激励してくださった先生方、困っている時はすぐに助けてくれた同級生。両者がいなければどんなに大変だったでしょう。

学びを支えてくださった先生方、友人に感謝の二年間です。ありがとうございます。

辻 真吾

(兵庫県立西脇北高等学校)

二年間の学びの中でも、特に有意義であったことを二つあげます。

一つ目は、組織論について学べたことです。学校経営学の中でもとりわけ関心を持って探求してきたつもりです。組織を作ることの奥深さや面白さを知ることができました。また、組織論は、社会学・心理学・経営学にまで及ぶ学際的な分野なので、自分の学問的視野を広げることができました。

二つ目は、異なる校種や自治体の教育に触れることができたことです。四半世紀の間、「兵庫県の高校」という枠組みの中でしか教育を考えたことがなかった私にとって、全国の多様な教員と情報・意見を交換し、教育的視野を広げる良い機会でした。

本間 厚子

(鳥取県倉吉市立杜小学校)

充実した二年間でした。日々の授業や周囲の人との公



改善プラン発表会

私に渡る刺激的な交流に心躍り、環境の変化に不安を感じた。それも、すばらしい仲間、先生方の支えのおかげです。

最も印象に残るのは、フィールドワークです。北は秋田、南は佐賀まで様々な研修の機会に恵まれました。先生方や仲間と方々に出かけ、朝早くから夜遅くまで語り合ったことは忘れません。そして最後の改善プラン作成に当たっては、多くの方に支えられながら、全力で打ち込むことができました。

ご指導いただいた先生方、ともに過ごしたかけがえのない二十一人の仲間、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

美作 健悟

(山口県山口市立白石中学校)

この二年間を振り返り、特に心に残っていることは次の三つです。①「立ち止まる自由な時間」を与えていただき、視野を広げることができたこと。②「深掘りする習慣」が少しは身に付き、気付きの質を高めることができたこと。

③「一人との出会い」により多くの学びの機会を得て、自分の引き出しを増やすことができたこと。これらが、いい経験となるか、いい思い出で終わってしまうかは、これから自分次第です。兵教大での経験が生きていると胸を張って言えるよう、学び続けていきたいと思えます。最後に、

御指導いただきました学校経営コースの先生方をはじめ、共に学んだP2、P1の皆様、学びを通じて出会えた方々に心より感謝申し上げます。

三井 清

(山口県山口市大蔵小学校)

二年間の大学院で最も印象に残っている授業は、何と云っても金曜日の午後に行われていた一・二年生合同の課題研究です。現任校や全国の先進校等の取組を院生が発表し合うことをとおして、その成功要因や課題分析の方法等について学ぶことができました。

私自身、先生方や院生からの質問や指導助言にいつも大変刺激を受けていました。私は、姫路市教育委員会を課題研究の事例として取り上げました。ここで学んだ事例研究の方法は、今後赴任した学校など対象が変わっても役に立つと確信しています。二年間の貴重な学びの場を与えていただいたことに感謝するとともに、学びの成果を学校現場に還元したいと思えます。

宮本 美枝子

(兵庫県立伊丹西高等学校)

この二年の時間は、世界への視座を拓き、学びを創造する力を私に授けてくれました。講義で教育の最先端の知識を学び、また、課題研究では多くの書籍や先行研究に触れ、全国各地の後期中等教育学校の公教育経営や教育実践をつぶさに観察する過程で、ミク

ロとマクロから本質を見抜く力を得たと感じています。同時に自己の課題も見出すことができました。硬軟をとり混ぜ、私達を導いてくださった浅野先生をはじめとする兵庫教育大学の諸先生方と、二年間共に学んだ同胞に深く感謝申し上げます。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました教育委員会、並びに、中西校長先生をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げます。

守山 勝

(兵庫県立香住高等学校)

「大学院での学びは人それぞれ。焦らず急げ」コース長である浅野先生がよく口にされる言葉です。この二年間、学校現場ではあり得ない程の時間と多様な学びの機会を与えて頂きました。

大学での講義・演習に加えて、全国を飛び回ったフィールドワーク、普段決して聴くことのできないゲストティーチャーによる講演、そして、押し寄せる課題とレポートの締め切り。「感性」で教師をしてきた私にとって、兵教大が大きなたーニングポイントになったことは確かです。

最後に、浅野先生、大野先生をはじめ兵教大の先生方、派遣元の兵庫県教委、香住高校の先生方、そして、何より共に過ごした素晴らしい仲間、心より感謝申し上げます。



山下 剛功

(静岡県浜松市立庄内学園)

かけがえのない財産は、異自治体・異校種・異年齢の間とのオン・オフ問わない交流、そして多くの学校視察や学会等に参加できたことである。(訪れた学校は三十三校、学会等で八カ所、計四十一カ所)。一番充実していた期間は、改善プラン発表までの一ヶ月間です。改善プラン作成のみに没頭できるという大変素晴らしい時間でした。

最後に、派遣元の浜松市教育委員会、現任教・浜松市立庄内学園の野秋愛美校長をはじめとする教職員・児童生徒の皆さん、ご指導いただいた兵庫教育大学の先生方、ともに学びを深めた学校経営コースの仲間、そして支えてくれた家族に感謝申し上げます。ありがとうございます。

山端 真司

(兵庫県神戸市立八多中学校)

北は、茨城県から南は沖縄県まで学校を訪問し、小中一貫教育を研究し、安藤先生から論文のご指導を受け、発表できたことが最大の成果です。また、学校評議委員会・学校評価委員会等のFWに参加させていただき、校長の視点、学校関係者の視点を学ばせて頂いたことも大きな収穫です。他に、オックスフォード大学の荻谷剛彦先生を始め、GT授業で数々の著名な先生方の話で見聞を広めることができました。馳文部科学大臣と話

をし、これからの日本の教育ビジョンを知ることができたことも神戸市の教育に活かしていけると思います。二年間の学びの一番の財産は、大学院の先生方、先輩、同期、後輩の方々と出会って話したこと

横田 威剛

(鳥取県米子市立福米西小学校)

今から二十年以上前、大学生であった当時、勤労学生であったために日々の生活費を稼ぐことが思考の中心でした。そんな私にとって、この二年間の学びはとても魅力的でした。学校経営や教育行財政の施策などに関する理論だけでなく、自分が学ぼうと思ったことに何でも挑戦できる機会を頂きました。本もたくさん読み、大学生らしい学びを実践できた満足しています。

改善プランでは「つながり」をテーマに改善のプロセスをまとめました。この二年間で、浅野先生をはじめ素晴らしい先生方、院生の仲間たちとの「つながり」を私自身が築くことができました。この「つながり」を励みに、四月からも学び続ける教師であり続けます。お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。

吉岡 美保

(京都府京丹後市立峰山小学校)

「意味を理解してその言葉(表現)を使っているのか」……発表するたびに問われた

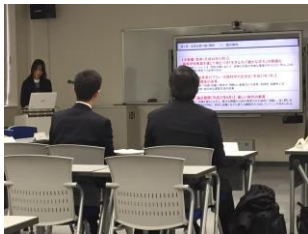
ことを思い出します。無自覚に使っている「マジックワード」の数々、「言葉の意味を共有しなければ協議はできない」、大学院生活はそんなことを自覚するところからの始まりでした。「これらの情報から『そうである』と言い切つてよいのか」、状況の捉え方や選択の妥当性に係る判断の在り様等々、思考の柔軟性は今後私の課題です。

仲間には恵まれ、先生方に見守っていただきながら多くのことを学んだ二年間でした。また、「学びは人それぞれ」。この言葉に力を得て、つながりはコース内に留まらず、学びは学内に留まらず、本当に充実した時間を過ごさせていだきました。ご縁を頂いた全ての人・モノ・コトに感謝しています。

四田 ちさと

(山口県立徳山高等学校)

兵庫教育大学大学院で素晴らしい仲間との出会いがありました。くじけそうになったときも支えていただき前に進むことができました。また、数々のフィールドワーク等によつて多様な価値観に触れ多くの刺激を受け視野を広げることができたと思っております。



改善プラン発表会

修了を目の前にしてこの二年間を振り返ってみると、自分と向き合うための貴重な時間であったことにあらためて気づかされます。本当に有意義な研修期間を過ごすことができました。

「修了」は新たなスタートであることを肝に銘じ、今後も学び続け、二年間の学びをこれからの教員生活の中で一杯活かしていきます。二年間ありがとうございました。

御挨拶

早い桜は咲き始め、もう鶯の声も聞こえています。二年生は新学期には、子どもたちや教職員がいる教育現場に戻ります。様々な課題があると思いますが、大学での学びを存分に生かして、それぞれの教育改革の実現に向かって御活躍されることを、心より祈念しております。

派遣元の皆様、今後共どうか末永く、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

心よりお祝い申し上げます  
益々の御活躍を祈念しております



平成28年2月7日改善プラン発表会場にて